

カンサス：小麦作柄と気象状況

2005年6月28日及び7月5日

2005年6月26日及び7月3日現在：

6月26日に終わる1週間の気温は上昇し平年並となり降水は殆ど無かった。Cnt地区の最高気温は103度Fとなった。他地区の最高気温は99～100度Fであった。1週間の州平均農作業稼働日数は6.5日であり、主たる農作業は小麦の収穫であった。州全体の66%の圃場にて小麦の収穫が完了した。

7月3日に終わる週の気温は更に上昇した。西部及び中央部の最高気温は100～104度F、東部3地区の最高気温は95～100度Fであった。東部を中心に降雨があり1週間の降水量はNE地区の一部では3.28インチ、EC地区では4.53インチを記録した。7月3日に終わる1週間の州平均作業稼働日数は5.9日(前週:6.5日)であった。土壌水分東部地方のTopsoilの“過多”が減少し、西部地方では“適”が減少した。Subsoilの水分は昨年より良い状態を保った。

7月3日現在、全州の冬小麦の90%が収穫された。病害の発生が多少増加し、作柄評価は多少落ちた。東部中心にあった豪雨の完熟した小麦への影響は報告されていない。

USDA7月1日付け冬小麦の生産予想では、単位収量は39.0 bu/acとなり、6月1日予想より1.0 bushelsの減少となったが、昨年実績(37.0 bu/ac)より良い結果であった。6月の完熟期の天候不順、低温がマイナス要因と思われるが、品位的には高容積重が期待される。詳細は別表の通り。

土壌水分状況：2005年7月3日現在

Topsoil

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Week	Year
Very Short (%)	0	8	3	1	3	18	3	0	7	4	3	1
Short (%)	30	20	19	32	26	31	4	19	15	21	23	8
Adequate (%)	70	72	78	67	64	51	80	79	77	72	72	70
Surplus (%)	0	0	0	0	7	0	13	2	1	3	2	21

Subsoil

Very Short (%)	7	10	15	2	3	13	0	0	0	5	5	13
Short (%)	48	43	29	34	20	21	8	8	11	23	22	30
Adequate (%)	45	47	56	64	72	64	91	91	89	71	72	52
Surplus (%)	0	0	0	0	5	2	1	1	0	1	1	5

Week means Last Week, Year means Last year.

小麦生育状況：収穫状況

	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State	Week	Year	Ave.
July 3 (%)	59	87	93	83	99	99	77	88	96	90	66	61	86
June 26 (%)	7	58	57	48	81	88	24	53	83	66	10	65	58

Week means Last Week, Year means Last Year, and Ave means 5-year Average.

作柄状況：6月26日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This Week (%)	7	17	40	30	6
Last Week (%)	6	19	39	30	6

Source : Kansas Agricultural Statistics Service

7月1日付けUSDA発表の冬小麦の生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
June 1				July 1			
Crop							
KS	8,500	9,600	37.0	40.0	39.0	314,500	374,400
USA	34,462	34,271	43.5	44.1	44.5	1,499,434	1,525,302

該作柄レポートに関するご質問等は下記までにお問い合わせ致します。

小川正晃 : Email ogawa.max@omicnet.com